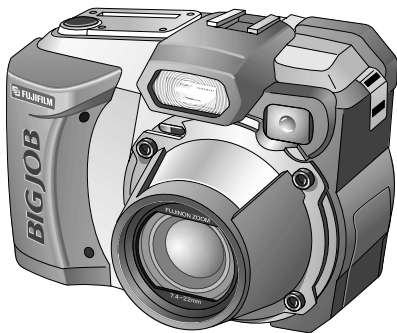
FUJIFILM

DIGITAL CAMERA

BIGJOB
ビッグ ジョブ

DS-260HD

使用説明書

この説明書には、フジフイルム デジタルカメラ DS-260HDの使い方がまとめられています。内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

目　次　＊1 準備編と2 基本編をお読みいただくと、通常の撮影は行えます。

1
2
3
4
5
6

はじめに/主な特長

ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

必ず事前に正常に動作するか､各防水カバーが確実にしまるかどうか確認してください。大切な撮影をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

＊万一本製品の取り扱いの不注意により水もれ事故を起こした場合、本製品の損傷、および画像データや撮影に要した諸費用などの保証は、ご容赦ください。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やデータの記録されたメモリーカードの伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

●皮膚に付着した場合
付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。

●目に入った場合
きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。

●飲み込んだ場合
水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■製品の取扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像データが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本カメラは第2種情報処理装置(住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置)で、住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)基準に適合しています。しかし本カメラをラジオ、テレビジョン受信機に近づけてお使いになると、受信障害の原因となることがあります。使用説明書に従って正しい取扱いをしてください。
- この機器を飛行機や病院の中で使用しないでください。
  使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤動作の原因となることがあります。

■商標について

- Macintoshは、Apple Computer, Inc.の商標です。
- MS-DOS、Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
  Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- SmartMediaは(株)東芝の商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

主な特長

- 水洗い防水形(JIS保護等級7相当)で水洗い、雨中の撮影が可能。(水中撮影不可)
- 高画質　150万画素CCD採用
- 1.8インチ液晶モニター
- 広範囲な撮影領域(マクロ撮影機能付き)
- 使いやすい3倍ズームレンズ・オートフォーカス
- 専用ワイドコンバージョンレンズ装着可能
- ストロボ：調光センサーによるオートストロボ
- 外部ストロボ(スレーブ機能付き)をアクセサリーシューに取り付け可能
- スマートメディア(SmartMedia)採用
- 画質(クオリティー)/ コマの画素数(ピクセル)選択可能
- PCモード：パソコンとの画像データ送受信が可能
- 撮影日時の記録・再生機能：撮影日時を自動的に記録(モニターにも表示されます)
- フィルター機能で手軽に簡単な画像加工がその場で楽しめる(ソフトフォーカス・クロスフィルター)
- マニュアル設定により、夜景をバックに美しく撮れる、花をきれいに撮れる
- Exif Ver.2.1対応：多くのパソコン向け画像アプリケーションでそのまま利用可能

＊PCカードアダプター PC-AD3Bやフロッピーディスクアダプター FD-A2Bを使えば、パソコンとの連携も一層便利です。

防水について　＊ご使用に際しては以下のことにご注意ください。

■水洗いの際のご注意

●本機は水中ではお使いになれません。
長時間水中に沈めておくことや、高い水圧での水洗いは避けてください。

●本機はJIS　7級の対応をしていますが、水中防水仕様ではないため水中撮影はできません。
機器の水洗い、雨中での撮影は可能です。
雨中撮影や水洗いした後にレンズ部の鏡筒部と底面の三脚ネジ部から水がしみ出てくる場合がありますが、この部分は2重構造となっているため心配はありません。

●本機の防水性能は、防水パッキンとその接触面で保たれています。これらの部分をぶつけたり、異物(砂やごみ、頭髪など)をはさみこんだりして傷をつけないようにしてください。

●防水パッキンは取り外さないでください。浸水の原因となります。汚れが気になるときは、かわいた柔らかい布でふいてください。それでも汚れが落ちないときは、新しい物との交換をお買上店またはお近くのフジサービスステーションに依頼してください。

●本機が汚れたら、防水カバー(スマートメディアカバー、バッテリーカバー、ジャックカバー)が閉まっていることを確認してバケツなどにためた水道水で洗い砂や塩分を落としてから、かわいた柔らかい布で水分を充分にふきとってください（塩分がついていると、金属部分が錆びることがあります)。水道の蛇口から出る水を、直接かけて洗わないでください。

●本機の開閉を行う場合は、本機についた水滴や汚れが本機内部に入らないよう気をつけてください。

■使用上のご注意

●海水や砂が入ることがあるため、浜辺、海上や砂地では本機の開閉はできるだけ避けてください。

●高温・多湿な場所で本機の開閉をしたあと、寒いところへ入れると、本機内部で結露が起こりガラス面がくもったりカメラの故障の原因となります。

●本機の内部に水滴が入った場所には、まず使用をやめてください。次に本機の電源を切り、電池を取り出して各部の防水カバーを開けたままにしてください。水滴が入った場合は、決してそのままで使用になさらずに、お買上げ店またはお近くのフジサービスステーションにご相談ください。

●回転式ツマミ(モードダイヤル、POWERスイッチ、視度調節レバー)は防水構造のため長時間放置しておくと、動作が重くなることがあります。数回動作させると通常の重さにもどります。

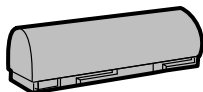
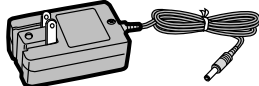
●カバーなどを開閉するときは、軍手をしたままで操作しないでください。またカメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所をさけて開閉してください。
カバーなどを開けたとき、内部に水滴がついている場合がありますので、きれいにふき取ってからご使用ください。
本製品は気密性が高いため、気圧が変化するとカバーが開けにくくなることがあります。

■日常の保守について

●防水パッキンの傷やひび割れは、浸水の原因となりますので、すぐに新しい物との交換をお買上げ店またはお近くのフジサービスステーションに依頼してください。
●防水パッキンの寿命は使いかたによって異なりますが、約1年をめやすに新しい物との交換をお買上げ店またはお近くのフジサービスステーションに依頼してください。

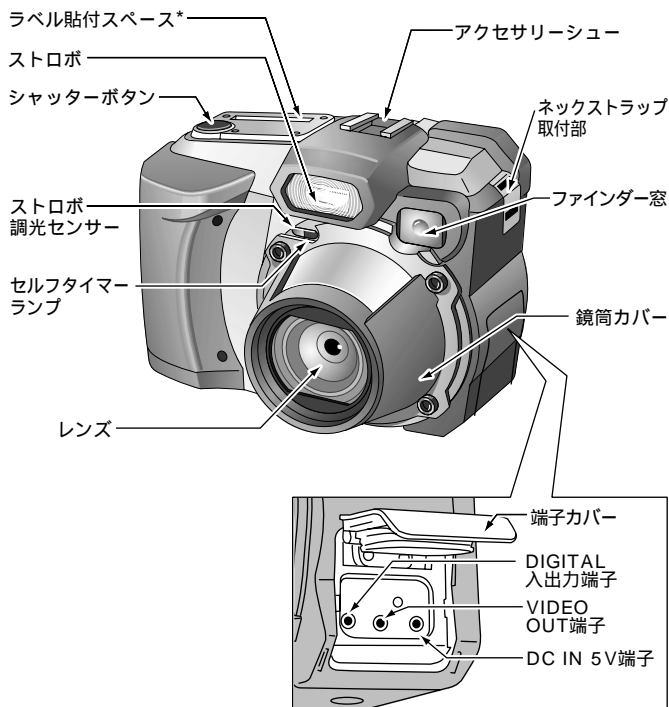
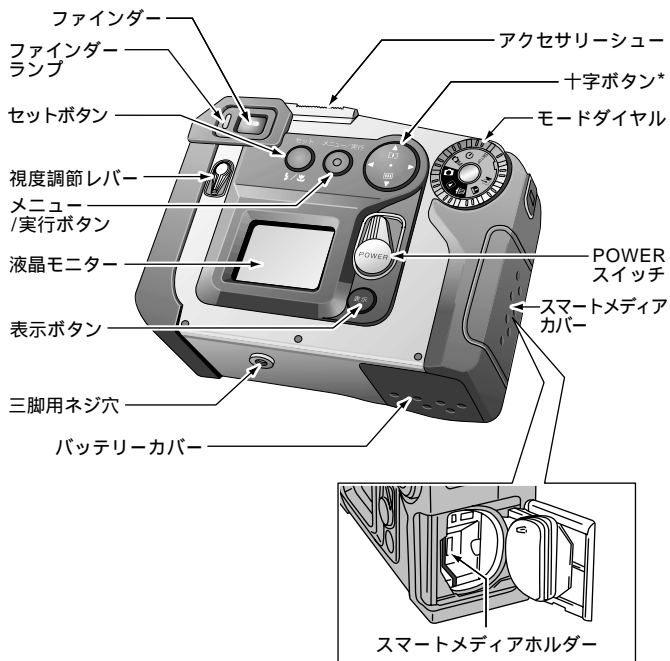
付属品

本機をお使いになる前にお確かめください。

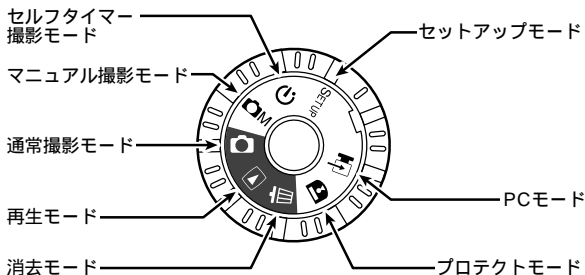
●充電式バッテリー NP-100
（容量1350mAh）（1本）
付属品：使用説明書（1部）

●ACパワーアダプター AC-5V
（接続コード：約2 m）（1台）
付属品：使用説明書（保証書付）（1部）

●ネックストラップ（1本）

●ビデオケーブル
（φ3.5mmミニプラグ×ピンプラグ
約1.5m）（1本）

●使用説明書（本書）（1部）
●安全上のご注意（1部）
●保証書（1部）

各部の名称

＊市販のラベル作成機などで作成したシールを貼るスペースです。

＊撮影モードでは、ズームボタンとして機能します。

モードダイヤルについて

モードダイヤルの概要

[SETUP]：セットアップモード（➡P37）
シャープネス、カラー、コマNo.メモリー、ビープ♪(ブザー)音、日時の設定が行えます。

[ ]：セルフタイマー撮影モード（➡P41）
約10秒のセルフタイマー撮影が行えます。

[M]：マニュアル撮影モード（➡P52）
撮影画を確認したあとに記録できます。また白バランス、明るさ(露出)、ストロボの明るさ、AE、ストロボ外部同調の設定を選べます。

[ ]：通常撮影(オート)モード（➡P18）
撮影状況に応じて露出(シャッタースピードと絞り値の組合せ)をカメラが自動的に制御する、簡単で使いやすい撮影方法です。特別な撮影意図のない、一般的な撮影に最適です。

[ ]：再生モード（➡P42）
通常の1コマ再生の他にマルチ再生、自動再生、再生ズームができます。

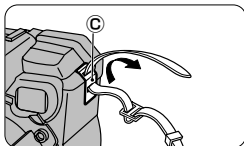
[ ]：消去モード（➡P46）
1コマ消去、全コマ消去、スマートメディアの初期化ができます。

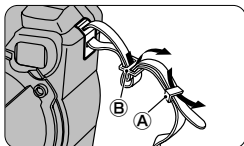
[ ]：プロテクトモード（➡P49）
1コマのプロテクト、1コマまたは全コマのプロテクト/解除ができます。

[ ]：PCモード（➡P68）
パソコンに画像を取り込むときに使用します。

ネックストラップの使いかた

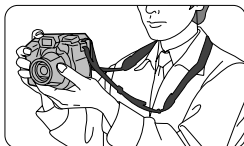
撮影中の落下を防止するためネックストラップをお使いください。

取り付けかた

ストラップ取付け部に、ストラップを通す

ストラップをカメラ本体に取り付ける。ストラップの先をカメラ本体の取り付け部Ⓒに通します。

ストラップを止め具に取り付ける

ストラップの先を止め具Ⓐに図の様に通します。
ストラップの先を止め具Ⓑに通して、ストラップを引っ張る。

図の様な取り付けかたをしないと撮影中に本機が落下する場合があります。

使いかた

ストラップに首を通す

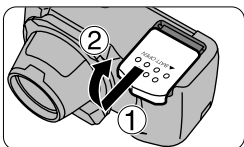
落下防止のため撮影時はストラップに首を通してから、グリップ部をお持ちください。

バッテリーを充電する

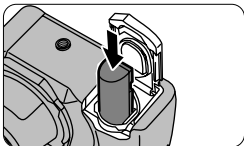
本機をお使いになるには、充電式バッテリー NP-100(付属または別売)、または専用のACパワーアダプター AC-5V(付属または別売)を使用してください。

バッテリーの入れかた

カメラに充電式バッテリー NP-100を入れます。

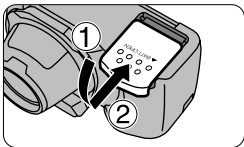
1

バッテリーカバーを開ける

① バッテリーカバーを手前にスライドさせます。
② バッテリーカバーを開けます。

2

バッテリーを入れる

- バッテリーに表示されている[▼]を先頭にして入れます。
- バッテリーが止まるところまで、押し込みます。

1

3

バッテリーカバーを閉める

① バッテリーカバーを上から押しつけます。
② 押しつけたままスライドさせて閉めます。

バッテリーカバーが確実に閉まっていることをご確認ください。

ご注意

- 出荷時、バッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず電源を切ってから交換してください。
- 電源を切らずにバッテリーを取り出すと、日時設定は初期値に戻ります。(➡P17)
- バッテリー交換後は、日時設定(➡P17)をご確認ください。
- 「バッテリーについてのご注意」(➡P72)と、NP-100の使用説明書も合わせてお読みください。

新しいバッテリーで連続して撮影できるコマ数のめやす

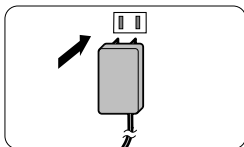
液晶モニターONの状態　：約100コマ
液晶モニターOFFの状態：約230コマ

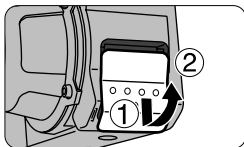
バッテリーを長く持たせるには

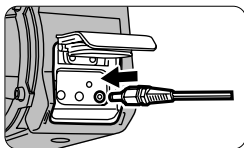
できるだけ、こまめに電源を切ることをおすすめします。

バッテリーの消耗について

電池が消耗してくると、液晶モニターにバッテリーマーク が表示されます。早めに充電済みのバッテリーに交換してください。バッテリーの充電にはACパワーアダプター AC-5V、またはバッテリーチャージャー BC-100(別売)をお使いください。

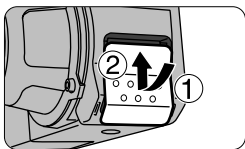
ACパワーアダプターを接続して充電する

電源コンセントに差し込む

ACパワーアダプター AC-5Vを電源コンセントに差し込みます。

端子カバーを開ける

① 端子カバーを矢印の方向にスライドさせます。
② 端子カバーを開けます。

カメラのDC IN 5V端子につなぐ

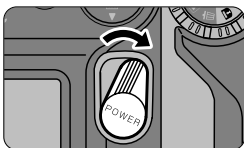
ACパワーアダプターのプラグをカメラのDC IN 5V端子に差し込みます。

- 約4秒後ファインダーランプが橙色に点灯し、自動的に充電を開始します。
- 充電中はファインダーランプが橙色に点灯し、充電完了すると消灯します。ファインダーランプ表示については「ファインダーランプについて」(➡P77)をご覧ください。
- 使いきったバッテリーの充電時間は約7時間です。

1

充電完了後プラグを端子からぬき、端子カバーを閉じる

① 端子カバーを押しつけます。
② 押しつけたまますライドさせて閉めます。

端子カバーが確実に閉まっていることをご確認ください。

すぐに試したいときは…

〈POWER〉スイッチを回転させて電源をONにすると、電源コンセントを使って撮影・再生ができます。

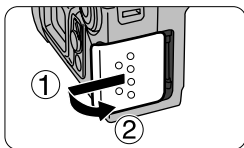
なお、電源ON状態では、充電はされません。

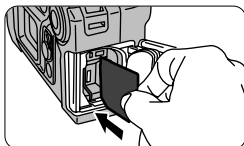
■ＡＣパワーアダプターについて
デジタルカメラ DS-260HDには、必ず専用のACパワーアダプター AC-5V(付属または別売)をお使いください。AC-5V以外のACパワーアダプターをお使いになると、本機の故障の原因となることがあります。

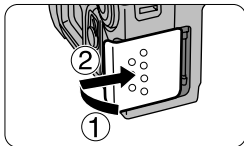
- ACパワーアダプターのプラグがカメラに正しく差し込まれていないと、充電されません。
- フル充電に近いバッテリーは充電しませんが、故障ではありません。

＊ACパワーアダプターについてのご注意(➡P73)と、AC-5Vの使用説明書も合わせてお読みください。

スマートメディアをセットする

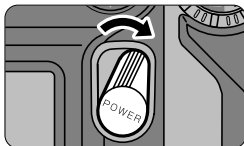
スマートメディアのセット

スマートメディアカバーを開ける

① スマートメディアカバーを手前にスライドさせます。
② スマートメディアカバーを開けます。

スマートメディアをセットする

スマートメディアの電極部(金色の部分)が、スマートメディアホルダーの金色のライン側(カメラの前面)に向くようにして、ゆっくり奥まで押し込みます。

スマートメディアカバーを閉める

① スマートメディアカバーを押しつけます。
② 押しつけたままスライドさせて閉めます。

スマートメディアカバーが確実に閉まっていることをご確認ください。

4

電源をONにする

POWER(電源)スイッチを矢印方向に回転させてから、指を離します。
ファインダー LEDが緑色に点灯します。

ノート ・液晶モニターに“ CARD NOT INITIALIZED ”と表示された場合は撮影できませんので、スマートメディアのフォーマット(➡P47)を行ってください。

1

スマートメディアをセットする

使用できるスマートメディア

スマートメディアは次のものが使用できます。

3.3V仕様：MG-4S(4MB)，MG-8S(8MB)，MG-16SB(16MB), MG-32SB (32MB)

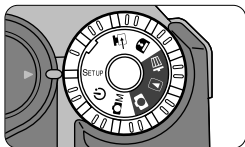
これらのスマートメディアは別売のPCカードアダプターを使うことにより、PC Card Standard ATAに準拠したPCカード(PCMCIA2.1/JEIDA4.2 TYPEⅡ)になります。

ご注意

本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。
「スマートメディアについてのご注意」(➡P74) も合わせてお読みください。

1

日時をセットする

年月日、時間を設定します

モードダイヤルを[SETUP]に合わせて、電源をONにする

SETUP画面が表示されます

日時を選択する

〈▲〉〈▼〉ボタンで日時を選択し〈メニュー/実行〉ボタンを押します。
年月日・時刻表示になり、年が点滅します。

3

設定して、〈メニュー/実行〉ボタンを押す

〈▲〉〈▼〉ボタンで数字を設定し〈▶〉〈◀〉ボタンを押すと、年↔月↔日↔時↔分の順に移動します。
設定が終了したら〈メニュー/実行〉ボタンを押して、[SETUP]画面に戻ります。

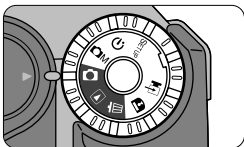
- 秒表示は[00]になり、〈メニュー/実行〉ボタンONで秒カウントアップ開始し、設定終了します。
- バッテリー交換後は、日時設定をご確認ください。

ノート バッテリーがなくても日時を正しく保持できる時間は約5分です。
バッテリーを交換する場合は5分以内に交換してください。

撮影 通常撮影(オート)モード

通常撮影モードは、撮影状況に応じて露出(シャッタースピードと絞り値の組合わせ)をカメラが自動的に制御する、簡単で使いやすい撮影方法です。特別な撮影意図のない、一般的な撮影に最適です。

液晶モニターを使った撮影

ここでは液晶モニターを使った撮影方法について説明します。ファインダーを使って撮影する場合は、「ファインダーを使った撮影」(➡P28)をご覧ください。

モードダイヤルを[📷]に合わせて、電源をONにする

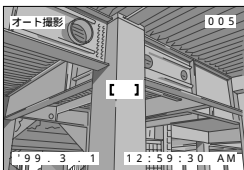
両手でカメラを持ち脇をしめる

カメラブレを防ぐために、両手でカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

ご注意

レンズ部やストロボ発光部に、指やストラップがかからないようにしてください。

レンズ面の汚れについて

レンズ面が指紋、ゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できません。レンズ面の汚れは、かわいた柔らかい布などで軽くふいてください。

液晶モニターを見ながら構図を決める

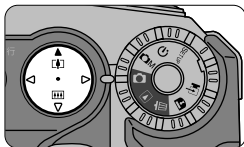
液晶モニターには、レンズを向けた方向のスルー画像(撮影前の動画)が表示されます。

液晶モニターは、正面から見るようにしてください。

＊図はイラストのため、実際表示とは異なります。

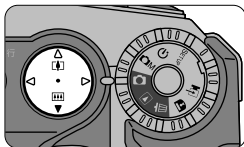
ノート
- 液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節することができます。(➡P27)
- 液晶モニターの明るさ調節は、記録される画像の明るさを調節するものではありません。

被写体の大きさを決める

〈▲〉〈▼〉ボタンを使って画角を決めます。
ズームは、35mmカメラ換算で約35mm～105mmの3倍ズームです。

望遠側にする

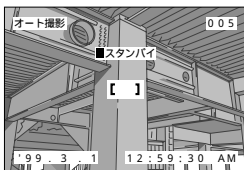
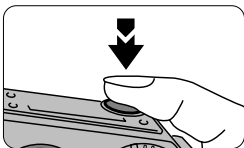
被写体を大きく写したいとき、〈▲〉を押します。

デジタル2×撮影

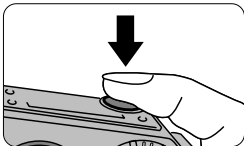
望遠側で〈▲〉ボタンをさらに約2秒間押し続けると、画面中央部分をさらに2倍に拡大して、35mmカメラ換算で約210mmの6倍ズームになります。画素数は640×480ピクセルに固定されます。ただし、画面中央部が拡大されるので、画質は粗くなります。〈▼〉ボタンを押すと解除されます。

広角側にする

広い範囲を写したいとき、〈▼〉を押します。

ト

- **ファインダーもズームに連動します（デジタル2×撮影では連動しません）。**
- **このカメラは、電源を入れてすぐの状態から、さらに広角側にズームできます。**

シャッターボタンを半押しする(軽く押して途中で止める)

- AF(オートフォーカス：自動ピント合わせ)・AE(自動露出制御)などが作動し始めます。
- AF・AEロックします。(➡P84)
- ファインダーランプが、緑色の点滅(AE・AF動作中)から点灯(準備完了)に変わります。
  次のような場合、ファインダーランプは点滅のままとなります。
  - AFが合わない場合
  - ストロボが[ ](➡P32)または[シンクロ](➡P33)で被写体が暗い場合。

ノート
- 露出とピントを合わせている間は、画像が消えます。
- 露出とピントが合うと、液晶モニターに「スタンバイ」の表示がでます。

そのまま、シャッターボタンを全押しする(半押しからさらに押し込む)

- ファインダーランプが橙色に点灯し、撮影されます。
- 撮影終了すると、スマートメディアに画像データが記録され、液晶表示パネルの撮影可能コマ数が1コマ減ります。

2

ご注意

- シャッターボタンを押して、ファインダーランプが橙色に変わるまでカメラを動かさないでください。カメラが動くと、写真がブレる原因となります。脇をしめて両手でカメラを保持してください。
- シャッターボタンを一気に全押しすると、撮影されないことがあります。その場合は、いったんシャッターボタンから指を離し、再度5、6の手順で撮影を行ってください。
- スマートメディアを出し入れする際は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。
- 記録中は絶対にスマートメディアカバーを開けたり、スマートメディアを取り出さないでください。スマートメディアまたはスマートメディアのデータが破壊されることがあります。

・被写体(画像の細かさなど)によっては、記録後の撮影可能コマ数が減らないか、または2コマ減る場合があります。記録されるデータ量が一定ではないためです。
・バッテリーの消耗を少なくするためには、ファインダーを使って撮影することをおすすめします。(➡P28)
・撮影される画像とファインダーで見える画像の構図には差がありますので、正確に構図を決めたい場合は、液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。
・撮影に先立ち、スマートメディアのフォーマット(➡P47)が必要な場合があります。

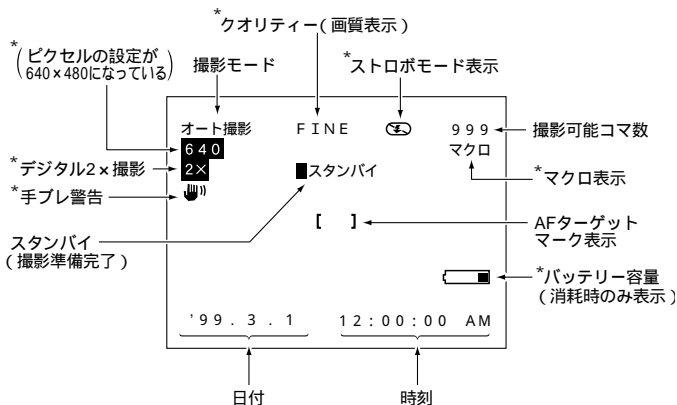
オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラは、正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件・被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わない状態で撮影されることがあります。

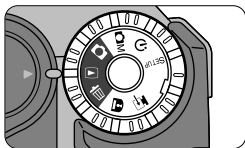
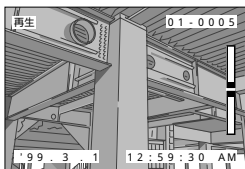
- 高速で移動する被写体
- 鏡･車のボディーなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように反射しにくいもの
- 煙や炎などの実体のないもの
- 被写体が遠くて暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)
- 被写体の手前や後方に物体が共存するとき(オリの中の動物や木の前の人物など)

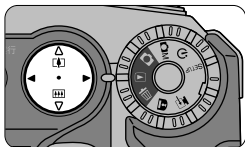
・被写体が液晶モニターに写らない程暗い場合、少なくとも被写体の一部が液晶モニターの中心部で視認できる様補助照明をあてるとピントが合いやすくなります。

■液晶モニターについて
液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、微細な斑点が現われることがあります。また、液晶の表示(特に文字の周囲)に色がつくことがありますが、どちらも故障ではありませんのでそのままお使いください。記録された画像にはこのようなことはありません。

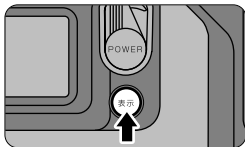
液晶モニターの文字表示例

＊印はモードの違いにより、表示されない場合もあります。

ノート 記録後やモード切換え後に、オンスクリーン表示が一瞬乱れることがありますが、撮影には影響ありません。

再生 撮った画像を見るには(1コマ再生)

モードダイヤルを[▶]に合わせて、電源をONにする

スマートメディアに記録された最終コマが液晶モニターに表示されます。

ノート
・液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節することができます。(➡P27)
・液晶モニターの明るさ調節は、記録される画像の明るさを調節するものではありません。

順送り/逆送り

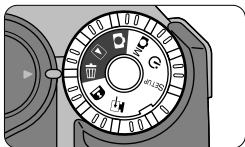
〈▶〉〈◀〉ボタンを押すと順送り/逆送りができます。〈▶〉〈◀〉ボタンを押し続けると、自動的にコマ送りします。

〈▶〉：順送り
〈◀〉：逆送り

文字表示を消すには

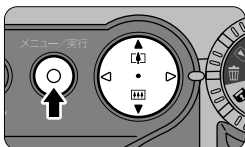
液晶モニターの文字表示を消したい場合は、〈表示〉ボタンを押します。
もう1度〈表示〉ボタンを押すとマルチ再生モードになります。文字表示を出すのには、さらにもう1度〈表示〉ボタンを押します。詳しくは(P45)を参照してください。

2

消去 いらない画像を消すには(1コマ消去)

選択された1コマが消去されます。

モードダイヤルを[🗑]に合わせて、電源をONにする

メニュー画面が表示されます。

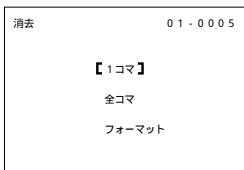
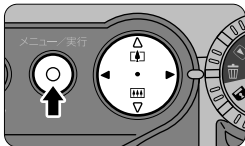
2

[1コマ]を選択して〈メニュー/実行〉ボタンを押す

〈▲〉〈▼〉ボタンで[1コマ]を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

消去　01－0005

【1コマ】

全コマ

フォーマット

3

消去する画像を選択して〈メニュー/実行〉ボタンを押す

〈▶〉〈◀〉ボタンで消去する画像を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

消去＜1コマ＞　01－0005

コマ選択＜◀▶＞ → ＜実行＞

実行確認が表示されます

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

消去する場合は〈メニュー/実行〉ボタンを、消去しない場合は〈▼〉ボタンを押します。

A 消去を続けるには

引き続き別のコマを消去する場合は、③からの操作を繰り返します。

B 消去をやめるときは

モードダイヤルを［ 🗑 ］以外に合わせると、消去モードを終了します。

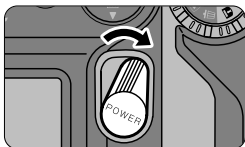
ご注意

- プロテクトコマは消去できません。[▲ PROTECT!!!] 表示が現れた場合は、その画像は消去できません。[ ] プロテクトモード(➡P49)でプロテクトを解除してください。
- スマートメディアが誤記録防止状態(➡P51)の場合は、消去もフォーマットもできません。
- 一度にすべてのコマを消去する場合には全コマ消去(➡P46)を行ってください。

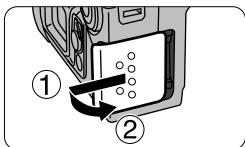
2

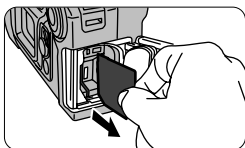
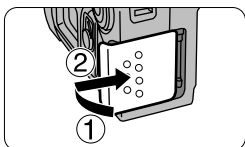
終了 使い終わったら(スマートメディアの取出しかた)

画像記録中でないことを確認してください。

1

電源をOFFにする

POWER(電源)スイッチを矢印方向にスライドさせてから、指を離します。

2

スマートメディアを取り出す

① スマートメディアカバーを[⬇]の方向にスライドして、スマートメディアカバーを開けます。

② スマートメディアをつまんで取り出します。

③ スマートメディアカバーを閉めます。

2

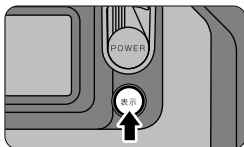
ご注意

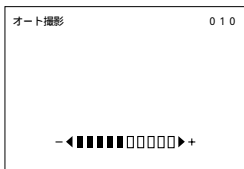
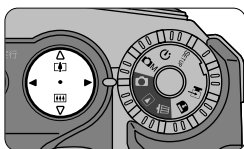
- **スマートメディアを出し入れする際は必ず電源をOFFにしてから行ってください。**
- **記録中または読み出し中は、絶対にスマートメディアカバーを開けたり、スマートメディアを取り出さないでください。スマートメディア、またはスマートメディアのデータが破壊されることがあります。**
- **スマートメディアカバーを開けると電源がOFFになります。**

液晶モニターの明るさ調節について　応用編

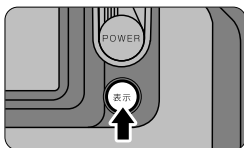
液晶モニターの明るさ調節は、通常撮影モード・マニュアル撮影モード・再生モードでのみ可能です。

●通常撮影モード　　　：オンスクリーン表示されているとき
●マニュアル撮影モード：スルー動画＋オンスクリーン表示されているとき
●再生モード　　　　　：1コマ再生で、オンスクリーン表示されているとき

1

〈表示〉ボタンを押し続ける

〈表示〉ボタンを約2秒間押し続けると、液晶モニターに明るさ調節モードが表示されます。

2

明るさを調節する

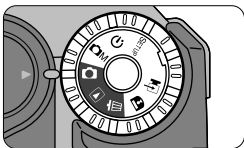
〈▶〉〈◀〉ボタンを押して明るさを調節します。

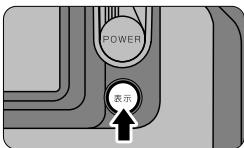
3

〈表示〉ボタンを押す

設定が終了して、明るさ調節モードに入る前の画面に戻ります。

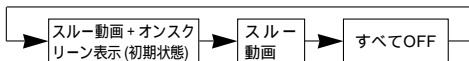
ノート　液晶モニターの明るさ調節は、記録される画像の明るさを調節するものではありません。

ファインダーを使った撮影

1

モードダイヤルを[📷]に合わせて、電源をONにする

2

〈表示〉ボタンを押す

液晶モニターの表示が消えます。

ノート 〈表示〉ボタンを押すと、モニターの動作状態が下記のように切り換わります。

3

カメラを正しく構える

カメラブレを防ぐために、両手でカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

たて位置撮影では、ファインダーが下になるように構えます。

ご注意

レンズ部やストロボ発光部に、指やストラップがかからないようにしてください。

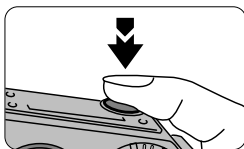
レンズ面の汚れについて

レンズ面が指紋、ゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できません。レンズ面の汚れは、かわいた柔らかい布などで軽くふいてください。

構図を決める

ファインダーをのぞき、構図を決めます。被写体までの距離が約1.5m〜∞（無限遠）の場合、ファインダーで確認した画像が撮影されます。

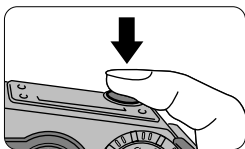
被写体までの距離が約90cm〜1.5mの場合、ファインダーの切り欠きより下側が撮影されます。被写体をこの範囲におさめてください。

ノート ファインダーをのぞいてピントが合わない場合は、望遠側ズームにしてファインダーをのぞき、約3mの被写体にピントが合うように視度調節レバー（➡P9）を調整して、ピントを合わせます。

シャッターボタンを半押しする

カメラが自動的に露出とピントを合わせます。
シャッターボタンについてはP20をご覧ください。

3

ご注意

手ブレを防止するため、脇をしめて両手でカメラをしっかりと持ってください。

そのままシャッターボタンを全押しする

- ファインダーランプが橙色に点灯し、撮影されます。
- 撮影終了すると、スマートメディアに画像データが記録され、液晶表示パネルの撮影可能コマ数が1コマ減ります。

・被写体(画像の細かさなど)によっては、記録後の撮影可能コマ数が減らないか、または2コマ減る場合があります。記録されるデータ量が一定ではないためです。

ご注意

- シャッターボタンを押して、ファインダーランプが橙色に変わるまでカメラを動かさないでください。カメラが動くと、写真がブレる原因となります。脇をしめて両手でカメラを保持してください。
- シャッターボタンを一気に全押しすると、撮影されないことがあります。その場合は、いったんシャッターボタンから指を離し、再度5、6の手順で撮影を行ってください。
- スマートメディアを出し入れする際は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。
- 記録中は絶対にスマートメディアカバーを開けたり、スマートメディアを取り出さないでください。スマートメディアまたはスマートメディアのデータが破壊されることがあります。

セットボタンについて

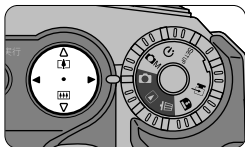
セットボタンは、撮影条件の設定を可能にします。
オート[ ]モード、マニュアル[M]モード、セルフタイマー[ ]モードでのみ使えます。

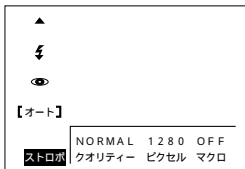
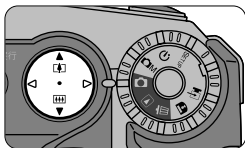
- **ストロボ、クオリティー、ピクセル、マクロの設定が行えます。**
- **各種設定内容は、電源をOFFにしても保持されます。**

ストロボ

ストロボの発光を設定します。

〈セット〉ボタンを押す

液晶モニターの画面にセットメニューが表示されます。

[ストロボ]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[ストロボ]を選択します。

設定を変更する

〈▲〉〈▼〉ボタンで設定を変更します。

［液晶モニターの表示の順番］　◆印：初期設定

［オート］◆：暗いときに自動的に発光します。
↕
［👁］：赤目軽減モードで自動的に発光します。
↕
［ϟ］：強制的に発光します。日中シンクロを行います。
↕
［⊘］：発光を禁止します。
↕
［シンクロ］：スローシンクロで強制発光します。

〈セット〉ボタンまたは〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を終了します。

■［オート］

撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。
特別な撮影意図のない、一般的な撮影に最適です。

ご注意
マクロ撮影時は、ストロボは発光禁止状態になります。

■［👁］赤目軽減

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。
撮影前にストロボが一度プレ発光し、2回目に撮影のためのストロボが発光します。
＊赤目現象について(➡P84)

■［ϟ］強制発光

ストロボを必ず発光させるモードです。
逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

■［⊘］ストロボ発光禁止

室内照明を利用しての撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。
ストロボの発光を禁止します。

ノート　暗い場所でストロボ発光禁止モードで撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

■［シンクロ］スローシンクロ

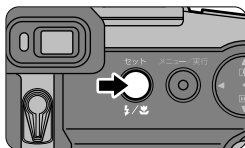
夜景をバックにした被写体をはっきり撮りたいとき、ONにして使用します。

常にストロボ発光します。
シンクロONで撮影する場合は、シャッター速度が遅くなり(スローシンクロ撮影)、手ブレ警告が表示されます。シャッターボタンを半押ししたときにファインダーランプが緑色に点滅し、液晶モニターONのときは手ブレマーク[ ]が表示されます。手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
また、[M]マニュアル撮影モード(➡P52)で撮影画像を確認してから、記録することをおすすめします。

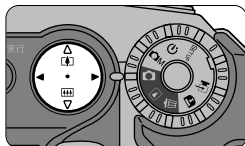
ノート　曇天、日陰、夕方での撮影時オートモードで遠景が暗くなるような場合は、スローシンクロ、大型ストロボのご使用をおすすめします。

クオリティー(画質)

撮影の目的に合わせて、3種類の画質(記録画像の圧縮率)を選べます。
画質によって撮影可能なコマ数(➡P80)が変わります。
画質を優先する場合は[FINE]を、コマ数を優先する場合は[BASIC]を選んでください。

1

〈セット〉ボタンを押す

液晶モニターの画面にセットメニューが表示されます。

2

[クオリティー]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[クオリティー]を選択します。

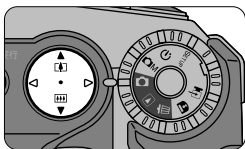
FINE

【NORMAL】

BASIC

オート ストロボ	クオリティー	1280 ピクセル	OFF マクロ

セットボタンについて

3

設定を変更する
〈▲〉〈▼〉ボタンで設定を変更します。

[液晶モニターの表示の順番]　◆印：初期設定

[FINE]　：1/4(JPEG)圧縮
↕
[NORMAL]◆　：1/8(JPEG)圧縮
↕
[BASIC]　：1/16(JPEG)圧縮

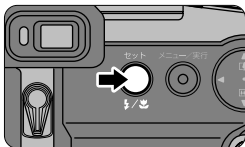
4

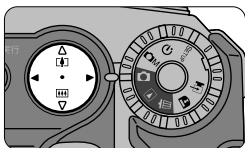
〈セット〉ボタンまたは〈メニュー/実行〉ボタンを押す
設定を終了します。

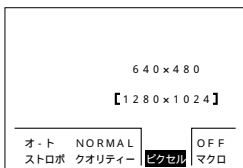
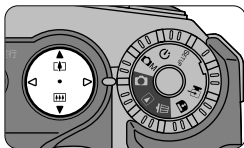
ピクセル(画素数)

撮影の目的に合わせて、2種類の画素数を選べます。画素数によって撮影可能なコマ数(➡P80)が変わります。[640×480]に設定すると、撮影時液晶に[640]が表示されます。

3

1

〈セット〉ボタンを押す
液晶モニターの画面にセットメニューが表示されます。

2

[ピクセル]を選択する
〈▶〉〈◀〉ボタンで[ピクセル]を選択します。

3

設定を変更する

〈▲〉〈▼〉ボタンで設定を変更します。

[液晶モニターの表示の順番]　◆印：初期設定

[1280×1024]◆　：1,280×1,024ピクセル
↕
[640×480]　：640×480ピクセル

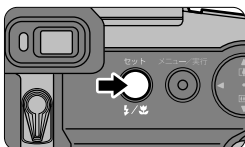
4

〈セット〉ボタンまたは〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を終了します。

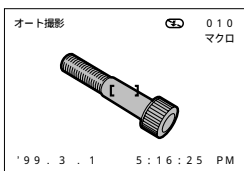
3

マクロ(近距離)撮影

マクロ(近距離)撮影機能を使うと、約25cm〜90cmまでの近距離撮影ができます。オートモード(➡P18)で液晶モニターを使って撮影するか、または[M]マニュアル撮影モード(➡P52)で撮影画像を確認してから、記録することをおすすめします。

〈セット〉ボタンを押す

液晶モニターの画面にセットメニューが表示されます。

マクロモードを選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[マクロ]を選択して、〈▲〉〈▼〉ボタンでマクロ設定をONにします。
自動的にストロボ発光禁止になり、液晶モニターにスルー画像(撮影前の動画)が表示されます。

液晶モニターを見ながら構図を決めて、撮影する

マクロ撮影をやめるには

〈セット〉ボタンを押して、マクロ設定をOFFにするとマクロモードは解除されます。

ノート
- **マクロ撮影時のストロボは強制発光(➡P32)・シンクロ(➡P33)に設定時のみ、発光します。**
- **液晶モニター表示をOFFにしていた場合、マクロ設定をONにすると、液晶モニター表示がONになります。また、マクロ設定をOFFにしても、液晶モニター表示はOFFになりません。**

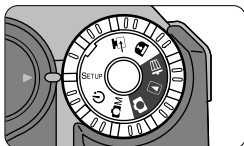
ご注意

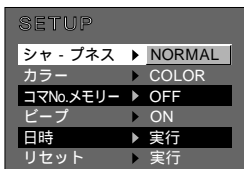
電源をOFFにするとマクロ設定は自動的にOFFになります。

3

セットアップモード

[SETUP]モードでは、6つの設定ができます。
各種設定内容は、電源をOFFにしても保持されます。

- **1. シャープネス**
- **2. カラー**
- **3. コマNo.メモリー**
- **4. ビープ♪（ブザー)音**
- **5. 日時(➡P17)**
- **6. リセット**

モードダイヤルを[SETUP]に合わせて、電源をONにする

SETUP画面が表示されます。

項目を選択する

〈▲〉〈▼〉ボタンで、カーソル[ ]が移動します。

3

設定を変更する

〈▶〉〈◀〉ボタンで設定を変更します。
押すごとにⒶの設定内容が切り換わります。
[日時]、[リセット]では〈メニュー/実行〉ボタンを押すと、それぞれの設定画面になります。
環境状況や目的に合わせ、設定内容を選びます。

設定を終了する

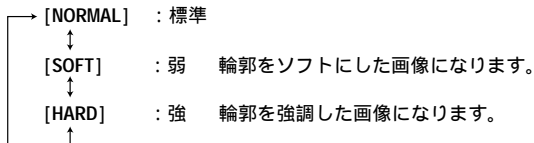
設定を終了したい場合は〈▲〉〈▼〉ボタンでカーソルを移動させ、次の設定にするか、モードダイヤルを切り換えます。

電源がONの状態でバッテリーの交換をしたり、ACパワーアダプターを抜き差しすると、各種設定が初期設定に戻る場合があります。また、故障の原因になる場合がありますので、バッテリーの交換やACパワーアダプターの抜き差しは、必ず電源をOFFにしてから行ってください。

シャープネス

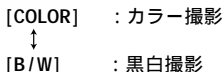
シャープネスは被写体の輪郭を強調したり、ソフトタッチにしたりして、イメージどおりの写真にしたいときに使います。

［液晶モニターの表示の順番］　◆印：初期設定

→［NORMAL］◆：標準
↕
［SOFT］　：弱 → 輪郭をソフトにした画像になります。
↕
［HARD］　：強 → 輪郭を強調した画像になります。

カラー

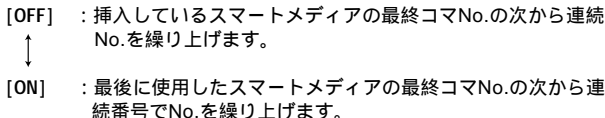
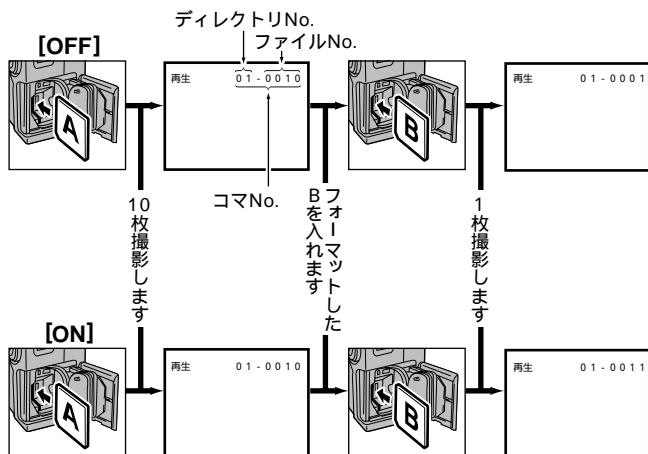
画像をカラーで記録するか、黒白で記録するかを選べます。黒白撮影は、文書をメモ代わりに撮影するときや、モノクロの被写体などを撮影するときに適しています。黒白に設定すると、液晶モニターに[B/W]が表示されます。

［液晶モニターの表示の順番］　◆印：初期設定

［COLOR］◆　：カラー撮影
↕
［B / W］　：黒白撮影

コマNo.メモリー

記録画像のコマNo.の繰り上げかたを設定します。コマNo.メモリーをONにすると、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

［液晶モニターの表示の順番］　◆印：初期設定

［OFF］◆：挿入しているスマートメディアの最終コマNo.の次から連続No.を繰り上げます。
↕
［ON］　：最後に使用したスマートメディアの最終コマNo.の次から連続番号でNo.を繰り上げます。

ただし、上記の最終コマNo.より大きいコマNo.のあるスマートメディアを使用した場合、スマートメディアの最終コマNo.の次から連続番号でNo.を繰り上げます。

コマNo. について

＊コマNo.の上位2ケタはディレクトリNo.を表わし、下位4ケタはファイルNo.を表わしています。
＊最大ファイルNo.は9999です。
＊ファイルNo.9999に達した場合、ディレクトリNo.が +1繰り上がり、ファイルNo.0001から撮影されます。
＊最大コマNo.は99−9999です。99−9999に達した場合、[コマNo.メモリー]をOFFにして、スマートメディアの記録画像を消去してからお使いください。

3

ビープ♪(ブザー)音

ビープ♪(ブザー)音は、ONとOFFの設定ができます。状況によって使い分けてください。

［液晶モニターの表示の順番］　◆印：初期設定

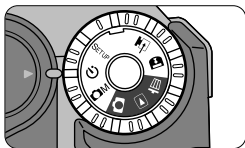
[ON]◆ ：動作状態、操作によってビープ(ブザー)音がします。
↕
[OFF] ：どのような状態でもビープ(ブザー)音はしません。

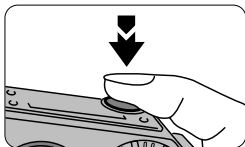
日時設定

年月日、時間を設定します。（➡P17）

リセット

〈メニュー/実行〉ボタンを押すと、初期設定(セットアップの各項目で◆印のついた設定値)に戻ります。
なお、日時設定はリセットされません。

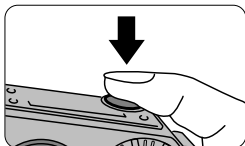
セルフタイマー撮影モード

モードダイヤルを[⏲]に合わせて、電源をONにする

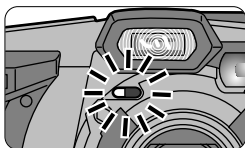
2

構図を決め、シャッターボタンを半押しする

カメラが自動的に露出を合わせます。

ご注意

カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケや露光不良になることがあります。

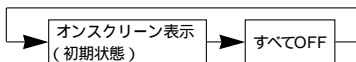
3

シャッターボタンを押す

4

セルフタイマーランプが点灯後、点滅する

約10秒後にシャッターが切れます。

3

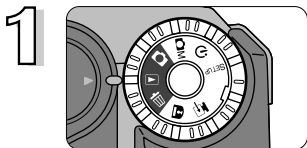
ノート

- セルフタイマー撮影を途中で止めるには、〈▼〉ボタンを押すか、モードダイヤルを別のモードに設定します。
- 液晶モニターで撮影する場合は、10秒からカウントダウン表示されます。
- 〈表示〉ボタンを押すと、モニターの動作状態が下記のように切り換わります。

再生モード(いろいろな再生機能)

屋内などコンセントがある場所では、ACパワーアダプター AC-5V(付属または別売)をご使用ください。
テレビを使って再生することもできます。(➡P67)

再生ズーム：モニターに4倍まで拡大して表示します

1コマ再生(➡P23)中の画像を4倍まで拡大して表示します。再生ズームは1コマ再生中のときにのみ可能です。

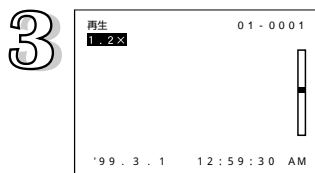
1

モードダイヤルを[▶]に合わせて、電源をONにする

最終コマが液晶モニターに表示されます。

2

コマを選択する

拡大したいコマを〈▶〉〈◀〉ボタンで選択します。

3

ズーム倍率を設定する

〈▲〉〈▼〉ボタンでズーム倍率を設定します。
ズーム倍率が表示されます。

4

ズーム位置を移動

〈セット〉ボタンを押しながら〈▶〉〈◀〉〈▲〉〈▼〉ボタンでズーム位置を移動できます。

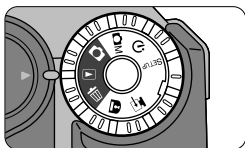
5

コマ送りして解除する

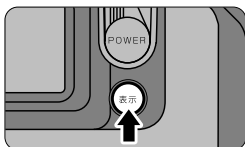
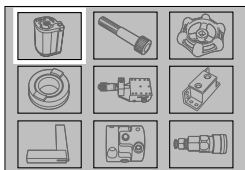
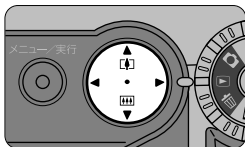
〈▶〉〈◀〉ボタンでコマ送りすると、再生ズームを解除できます。

ノート **再生ズーム中に〈表示〉ボタンを押すと、倍率・コマNo.・日時の表示/非表示が切り換わります。**

3

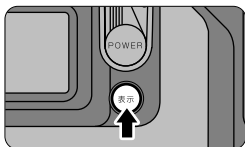
マルチ再生：9画面のマルチ再生と画像の選択ができます

モードダイヤルを[▶]に合わせる

最終コマが液晶モニターに表示されます。

2

〈表示〉ボタンを2回押す

9画面マルチ再生画になります。

コマを選択する

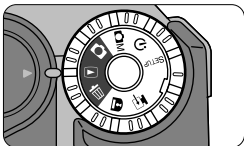
9画面マルチ再生画の状態で〈▶〉〈◀〉〈▲〉〈▼〉ボタンを押すとカーソルが移動してコマを選択できます。

- **コマNo.はカーソルが移動したときのみ表示されます。**
- **〈▶〉〈◀〉〈▲〉〈▼〉ボタンを押し続けるとカーソルが連続送りされます。**

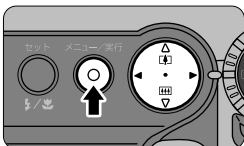
4

〈表示〉ボタンを押す

選択したコマの1コマ再生画が液晶モニターに表示されます。

オートプレイ：自動的にコマ送りして再生します

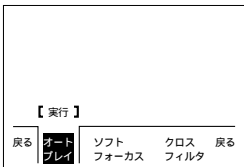
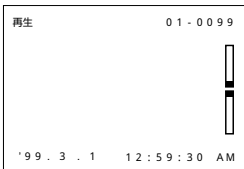
1

モードダイヤルを[▶]に合わせる

最終コマが液晶モニターに表示されます。

2

〈メニュー/実行〉ボタンを押し、[オートプレイ]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[オートプレイ]を選択します。

【 実行 】

戻る　オートプレイ　ソフトフォーカス　クロスフィルタ　戻る

3

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

オートプレイを開始します。

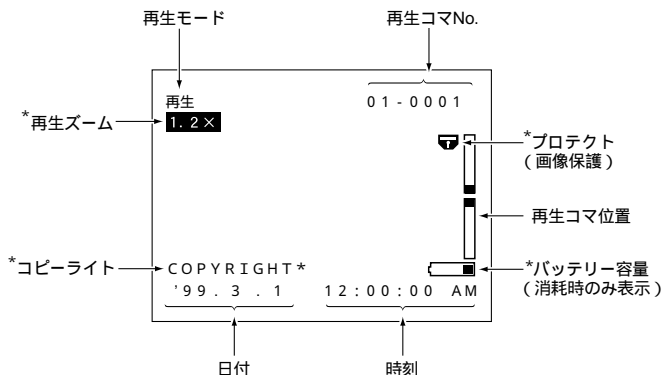
4

オートプレイを解除するには

〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

ノート
- オートプレイ時は、オートパワーオフ機能(➡P85)は働きません。
- オートプレイ中に〈表示〉ボタンを押すと、コマNo.や日時の表示/非表示が切り換わります。

3

液晶モニターの文字表示例

＊印はモードの違いにより、表示されない場合もあります。

ノート
- **再生モードおよび再生コマNo.などは、本機(DS-260HD)以外の弊社製デジタルカメラで記録した画像を再生した場合、文字表示例と異なる場合があります。**
- **コピーライトは、別売のインターフェースセットに付属のソフトウェアで情報を記録した画像のときに表示されます。詳しくは、ソフトウェアに付属の使用説明書をご覧ください。**
- **〈表示〉ボタンを押すとモニターの動作状態が下記のように切り換わります。**

3

消去モード

1コマ消去、全コマ消去、フォーマットが選べます。

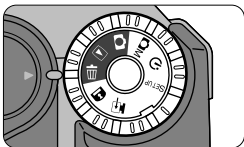
1コマ消去

選択された1コマが消去されます。（➡P24）

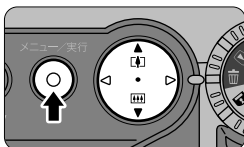
ノート 〈表示〉ボタンを押して、9画面マルチ再生時(➡P43)と同様の操作でも消去するコマを選択できます。

全コマ消去

スマートメディアのプロテクト(➡P49)していないコマ全部が消去されます。

1

モードダイヤルを[🗑]に合わせる

メニュー画面が表示されます。

2

[全コマ]を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押す

〈▲〉〈▼〉ボタンで[全コマ]を選択して〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

3

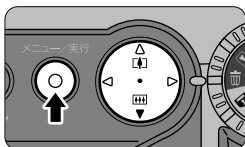
消去<全コマ> 01−0099

■OK？

OK<実行> 取消<▼>

実行確認が表示されます

3

4

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

消去する場合は〈メニュー/実行〉ボタンを、消去しない場合は〈▼〉ボタンを押します。

全コマ消去した場合、ディレクトリNo.(➡P39)は保存されます。このあとに撮影した画像は、保存された最大ディレクトリNo.で記録されます。

フォーマット(初期化)

スマートメディアのプロテクト(➡P49)しているコマを含むすべてのコマが消去され、フォーマットされます。

ご注意

スマートメディアのフォーマットは、必ずこのカメラで行ってください。

1

モードダイヤルを[🗑]に合わせる

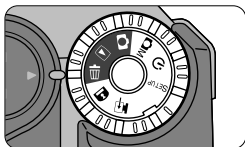
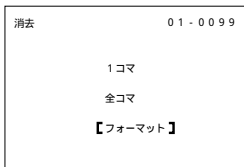
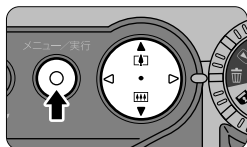
消去　　01−0099

1コマ

全コマ

【フォーマット】

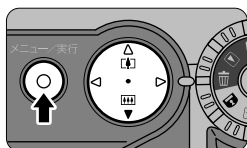
メニュー画面が表示されます。

3

2

[フォーマット]を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押す

〈▲〉〈▼〉ボタンで[フォーマット]を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

3

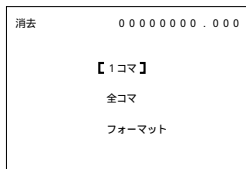
実行確認が表示されます

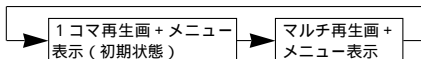
4

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

フォーマットする場合は〈メニュー/実行〉ボタンを、キャンセルする場合は〈▼〉ボタンを押します。

消去　00000000.000

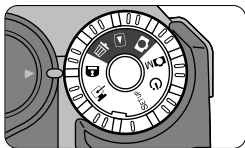
【1コマ】

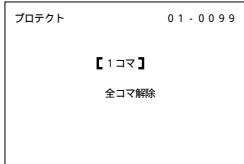
全コマ

フォーマット

ノート
- フォーマットした場合、ディレクトリNo.(➡P39)はリセットされます。このあとに撮影した画像は、ディレクトリNo.[01]から記録されます。
- 〈表示〉ボタンを押すと、モニターの動作状態が下記のように切り換わります。

プロテクトモード（画像の保護）

画像を誤って消去しないように読み出し専用データにします。
カメラを使って設定する以外に、カード全体をプロテクトすることもできます。（➡P51）

ご注意
スマートメディアのフォーマットを行うと、プロテクトは無効になり画像はすべて消去されます。

1コマプロテクト/プロテクト解除

モードダイヤルを[ ]に合わせて、電源をONにする
メニュー画面が表示されます。

2

[1コマ]を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押す
〈▲〉〈▼〉ボタンで[1コマ]を選択して〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

3

プロテクトする画像を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押す
〈▶〉〈◀〉ボタンでプロテクトする画像を選択して〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

ノート　〈表示〉ボタンを押して、9画面マルチ再生時(➡P43)と同様の操作でもプロテクトするコマを選択できます。

プロテクトされる
コマNo.の下にプロテクトマーク[ ]が付き、プロテクトされます。

3

5 プロテクト解除

1～3の操作で、プロテクト解除する画像を選択して〈メニュー/実行〉ボタンを押します。
コマNo.のプロテクトマークが消えてプロテクト解除されます。

6 繰り返し

引き続き別のコマをプロテクトまたは解除する場合は、3からの操作で繰り返すことができます。

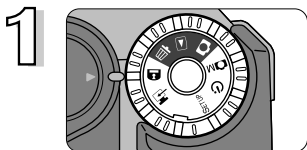
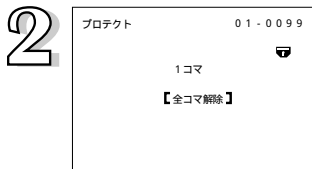
全コマプロテクト解除

プロテクトされているすべてのコマのプロテクトを解除します。

1

モードダイヤルを[ ]に合わせる

メニュー画面が表示されます。

2

[全コマ解除]を選択し、〈メニュー/実行〉ボタンを押す

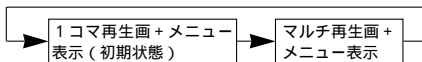
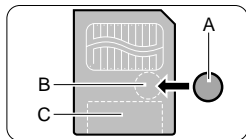
〈▲〉〈▼〉ボタンで[全コマ解除]を選択して、〈メニュー/実行〉ボタンを押します。

3

実行確認が表示されます

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

プロテクト解除する場合は〈メニュー/実行〉ボタンを、プロテクト解除しない場合は〈▼〉ボタンを押します。

ノート 〈表示〉ボタンを押すと、モニターの動作状態が下記のように切り換わります。

誤記録防止について（スマートメディアのプロテクト）

大切なデータをうっかり消さないためには、ライトプロテクトシール(A)をスマートメディアのライトプロテクトエリア(B)にはってください。記録・消去ができなくなります。
再び、記録・消去するときは、シールをはがします。

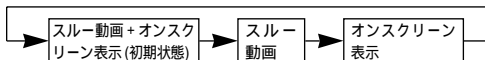
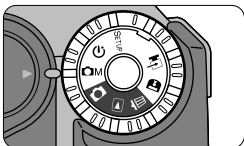
ご注意

- シールが汚れていると誤記録防止が機能しない場合があります。かわいた柔らかい布などで、汚れをふきとってください。はがしたシールの再利用はできません。
- インデックスラベル・ライトプロテクトシールは、必ず付属のものを使用してください。
- ライトプロテクトシールの端で手を切らないようにご注意ください。
- インデックスラベルは、インデックスエリア（C）内にはってください。

マニュアル撮影モード

各種撮影条件の設定が可能で、撮影した画像をモニターで確認してから、スマートメディアに記録するかしないかを選択できる撮影モードです。
各種設定内容は電源をOFFにしても保持されます。

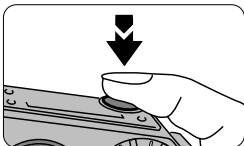
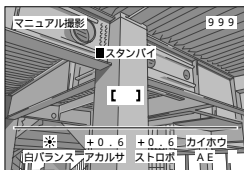
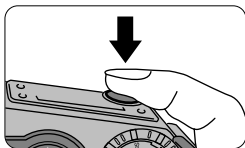
ご注意

- マニュアル撮影モードで設定される項目の白バランス設定・明るさ設定（露出補正）・ストロボ補正設定・AE設定・ストロボ外部同調は、マニュアル撮影モードのみで有効です。また、設定は電源をOFFにしたあとで、再度電源をONにしても保持されています。
- 電源がONの状態でバッテリーの交換をしたり、ACパワーアダプターを抜き差しすると、各種設定が初期設定に戻る場合があります。また、故障の原因になる場合がありますので、バッテリーの交換やACアダプターの抜き差しは、必ず電源をOFFにしてから行ってください。
- 〈表示〉ボタンを押すとモニターの動作状態が下記のように切り換わります。

1

モードダイヤルを[M]に合わせて、電源をONにする

液晶モニターのメニュー画面が消えているときは〈表示〉ボタンを押してください。

ノート
- 液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節することができます。（➡P27）
- 液晶モニターの明るさ調節は、記録される画像の明るさを調節するものではありません。

3

2

構図を決め、シャッターボタンを半押しする

カメラが自動的に露出とピントを合わせます。

シャッターボタンを全押しする

液晶モニターにプレビュー画が表示されます

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

スマートメディアに記録する場合は〈メニュー/実行〉ボタンを、記録しない場合は〈 ▼〉ボタンを押します。

ご注意

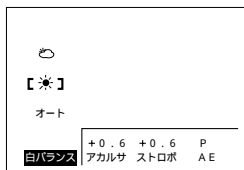
- **スマートメディアを出し入れする際は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。**
- **記録中または読み出し中は、絶対にスマートメディアカバーを開けたり、スマートメディアを取り出さないでください。スマートメディア、またはスマートメディアのデータが破壊されることがあります。**

白バランス設定(照明による色の変化の補正)

白バランスの設定にはオート・屋外(晴天)・日陰・蛍光灯1・蛍光灯2・電球の6種類があり、照明光による白バランスの調整を行います。
通常はオートのままで撮影しますが、その他の設定は、日陰や特定の照明光に固定したいときに使用します。

1 モードダイヤルを[M]に合わせる

液晶モニターのメニュー画面が消えているときは〈表示〉ボタンを押してください。

2

[白バランス]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[白バランス]を選択します。

3 白バランスの設定を選択する

〈▲〉〈▼〉ボタンで設定を選択します。

- **[オート] ：自動調整**
- **[☀] ：屋外撮影(天候が晴れている場合)**
- **[日陰] ：日陰撮影(日陰で撮影する場合)**
- **[蛍光灯1] ：昼光色下撮影(青みがかった蛍光灯の場合)**
- **[蛍光灯2] ：昼白色下撮影(赤みがかった蛍光灯の場合)**
- **[電球] ：電球下撮影**

4

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を決定します。

ノート
- **初期設定は[オート]です。**
- **ストロボ発光時にはこの設定は働きません。**

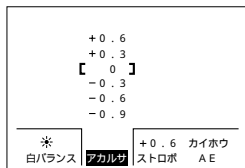
露出補正(画像の明るさを変えたいとき)

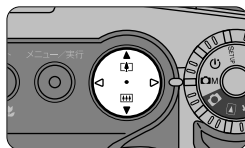
被写体と背景のコントラスト(明暗の差)がきわめて大きい場合や撮影したい被写体が画面内で極端に小さい場合など、適正な明るさ(露出)が得られないときに使用します。

1 モードダイヤルを[M]に合わせる

液晶モニターのメニュー画面が消えているときは〈表示〉ボタンを押してください。

2

[アカルサ]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[アカルサ]を選択します。

3

設定を選択する

〈▲〉〈▼〉ボタンで明るさ(露出補正)の設定を選択します。

〈▲〉：明るくする

〈▼〉：暗くする

補正範囲は9段(−0.9〜＋1.5EV，約0.3 EVステップ)です。

ご注意

撮影状況が暗いと、〈▲〉ボタンを押しても明るくならない場合があります。

3

4

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を決定します。

ノート
- **初期設定は[0]です。**
- **被写体が暗い場合、スルー動画(撮影前の動画)の明るさが変化しないことがあります。シャッターボタンを押して、プレビュー画(撮影された静止画)で明るさを確認してください。**

次のような被写体のとき効果があります。（　）内は補正のめやすです。

＋(プラス)補正

- 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の複写(＋1.5EV)
- 逆光の撮影(人物撮影)(＋0.6〜＋1.5EV)
- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合(＋0.9EV)
- 画面内を空の部分が大きく占める場合(＋0.9EV)

−(マイナス)補正

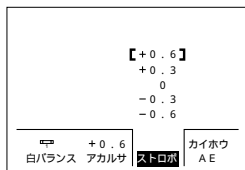
- スポットライトを浴びた被写体、特にバックが暗い場合(−0.6EV)
- 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の複写(−0.6EV)
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合(−0.6EV)

ストロボ補正設定(撮影時のストロボの明るさを変えたいとき)

被写体が画面内で極端に小さい場合や、90cm以内の近距離でストロボ撮影する場合など、適正な明るさにならないときに使用します。

1 モードダイヤルを[M]に合わせる

液晶モニターのメニュー画面が消えているときは〈表示〉ボタンを押してください。

2

[ストロボ]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[ストロボ]を選択します。

3 ストロボの明るさの設定を選択する

〈▲〉〈▼〉ボタンでストロボの明るさの設定を選択します。

〈▲〉：明るくする
〈▼〉：暗くする

補正範囲は±2段(−0.6〜+0.6EV，約0.3EVステップ)です。

ご注意

撮影状況が暗かったり、被写体が遠すぎると、明るくならない場合があります。

3

4 〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を決定します。

ノート
- **初期設定は[0]です。**
- **スルー動画(撮影前の動画)では明るさは変化しません。シャッターボタンを押して、プレビュー画(撮影された静止画)で明るさを確認してください。**

AE設定(絞りを選択して撮りたいとき)

[P]　：プログラムAEモードです。カメラが絞りとシャッタースピードを決めます。

[カイホウ]・[コシボリ]　：絞りを選択して撮影するモードです。

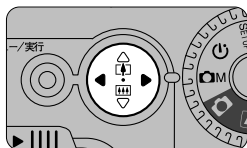
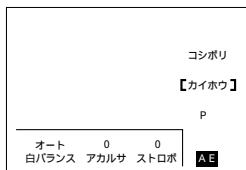
- [カイホウ]を選択すると、一番撮影したい被写体の近くだけにピントを合わせて背景をボケ気味にすることができます。
- [コシボリ]を選択すると、近景から遠景まで鮮明に撮影できます。

1 モードダイヤルを[M]に合わせる

2 [AE]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[AE]を選択します。

コシボリ
【カイホウ】
P

オート　0　0
白バランス　アカルサ　ストロボ　AE ▶

3 AEモードを選択する

〈▲〉〈▼〉ボタンで AEモードを選択します。

[P]　：プログラムAE

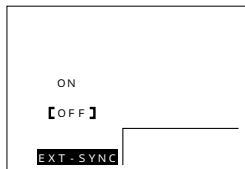
[カイホウ]・[コシボリ]　：絞り優先AE

4 〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を決定します。

ストロボ外部同調設定(スタジオ撮影に適します)

スタジオ用の大型ストロボを同調させて撮影する場合に適したモードです。市販の光同調用スレーブユニットを外部ストロボに接続し、DS-260HDの内蔵ストロボ発光によって動作をさせます。

1 モードダイヤルを[📷M]に合わせる

[EXT-SYNC]を選択する

〈▶〉〈◀〉ボタンで[EXT-SYNC]を選択します。

3 [ON]を選択する

〈▲〉ボタンで[ON]を選択します。

4 〈メニュー/実行〉ボタンを押す

設定を決定します。

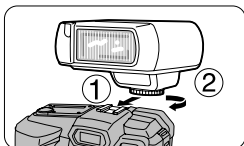
- **スレーブユニットはカメラ本体の内蔵ストロボが届く範囲(約2m以内)に設置してください。[EXT-SYNC]が[ON]では、内蔵ストロボが届く範囲が狭くなります。**
- **シャッター速度は1/125秒、絞りはF7.6に固定されます。この条件で最適な露出が得られるように、外部ストロボの光量を調節してください。**
- **この設定は、〈セット〉ボタンの中で設定するストロボのモードに優先します。**
- **白バランスは、スタジオなどで使用される大型のストロボに近い色温度(5,700K)に固定されます。したがって、外部ストロボの色温度をそのように設定してください。**

ストロボGAを使う

内蔵ストロボの光量が足りないときは、別売のフジフイルム ストロボGAをおすすめします。スレーブ機能による内蔵ストロボとの増灯撮影ができるようになります。

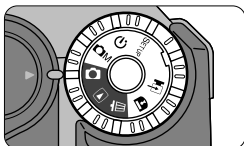
ご注意

ストロボGAはカメラ本体の内蔵ストロボに同調して発光します。カメラ本体の内蔵ストロボが発光しない場合はストロボGAも発光しません。ストロボGAは防滴構造ではありません。水洗い及び雨中の撮影での使用はできません。

1

ストロボGAをカメラに取り付ける

ロックナットを矢印方向に回してゆるめ、ストロボの脚部をアクセサリーシューの奥まで差し込んでから、ロックナットを充分に締めます。

ご注意

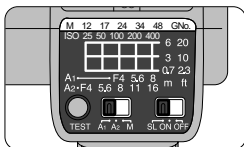
- **ストロボの電源スイッチを入れたまま、静電気を帯びた手などでカメラに触れるとストロボが誤発光する場合があります。**
- **ストロボを持って持ち上げたり、運んだりしないでください。**

カメラのモードを設定する。

モードダイヤルを[📷]または[📷M]に合わせます。

ノート
- **内蔵ストロボが[オート]で発光しない場合は、[⚡]強制発光を使用します。**
- **[シンクロ]スローシンクロもお使いになれます。(➡P33)**

ご注意

赤目モードでは、ストロボGAは使えません。

3

ストロボGAのストロボモードを設定する。

A1/A2は、自動調光モードです。被写体の反射光量に合わせて、発光量をストロボが自動制御します。Mは、マニュアルモードです。撮影距離に応じてカメラのレンズ絞り値を設定します。

メインスイッチの設定

“ SLスレーブ ” にセットします。（➡P85）

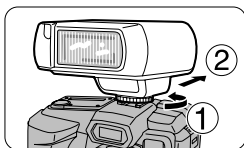
モードスイッチの設定

“ A1 ” にセットします。
撮影可能距離は0.9〜6mです。
レディランプが点灯したら撮影可能です。

ノート
- **望遠側で撮影距離が遠いとき、適正な明るさが得られない場合があります。そのときは “ A2 ” に切り換えることで明るさを補正できます。それ以外の場合は露出がオーバーとなりますので使用しないでください。**
- **MモードにするとGNo24（ISO100・m）のフル発光をします。**

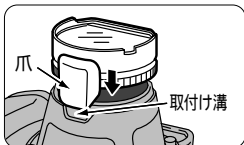
ご注意

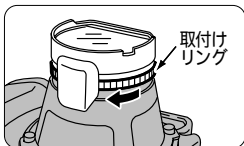
メインスイッチ“ ON ”の設定では、ストロボGAは発光しません。
マクロ撮影時は、ストロボGAを“ OFF ”にして下さい。
被写体が遠い（6m〜）場合、内蔵ストロボ光を検知できず発光しない場合があります。
通常の撮影はバウンス角度が0 °になっていることを確認して下さい。

取り外しかた

ロックナットを充分に回してゆるめ、ストロボを引き出す

ワイドコンバージョンレンズWL-260HDの取付けかた（別売りアクセサリー）

焦点距離を0.8倍に変換します。（35mmカメラ換算で広角側で28mm相当望遠側で84mm相当）

1

取付け溝に爪を合わせる

2

取付けリングを矢印方向にねじ込む

取り付け終了です。
外すときは矢印を反対方向に取付けリングを回してください。
ワイドコンバージョンレンズを使用してストロボ撮影する場合はストロボGAの使用をおすすめします。

ノート

- ワイドコンバージョンレンズ使用時の構図設定は液晶モニターの使用をしてください。
- 本体ファインダーでは映る範囲が異なります。
- 防水仕様ではありませんので洗う時は外してください。
- レンズが汚れた時は市販のクリーナーセット等を使用して汚れを落としてください。

フィルター機能(再生中の画像を加工する)

工事用の写真では、画像を加工する必要はありません。

ソフトフォーカス

1コマ再生中の画像を、ソフトフォーカスフィルターを使用して撮影したような画像にできます。

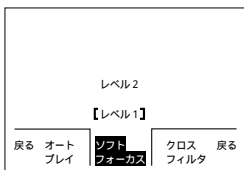
1 コマを選択する

1コマ再生の状態で、ソフトフォーカスをかけたいコマを選びます。
1コマ再生の方法についてはP23をご覧ください。

2

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

メニュー画面が表示されます。

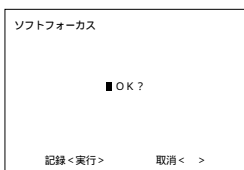
3

[ソフトフォーカス]を選ぶ

〈▶〉〈◀〉ボタンで、[ソフトフォーカス]を選びます。
ソフトフォーカスフィルターを選択する画面が表示されます。

ノート [戻る]を選び、〈メニュー/実行〉ボタンを押すと、1コマ再生に戻ります。

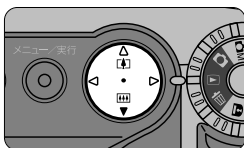
4 フィルターの強さを選ぶ

〈▲〉〈▼〉ボタンで[フィルター]を選びます。
[レベル1] ：フィルター効果 弱
[レベル2] ：フィルター効果 強

5

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

確認画面が表示されます。
〈メニュー/実行〉ボタンを押すと、ソフトフォーカスの画像が記録されます。

3

ノート ソフトフォーカスの画像は、最後のコマに記録されます。なお、元の画像はそのまま残っています。

画像を記録しないとき

〈▼〉ボタンを押します。メニュー画面に戻ります。

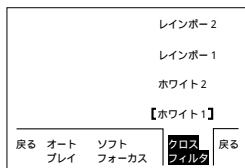
クロスフィルター

1コマ再生中の画像を、クロスフィルターを使用して撮影したような画像にできます。

1 コマを選択する

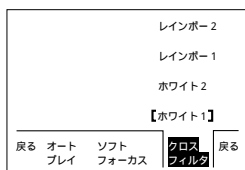
1コマ再生の状態で、クロスフィルターをかけたいコマを選びます。
1コマ再生の方法についてはP23をご覧ください。

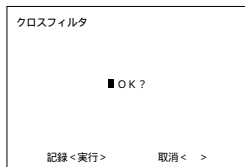
2

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

メニュー画面が表示されます。

[クロスフィルター]を選ぶ

〈▶〉〈◀〉ボタンで、[クロスフィルター]を選びます。

ノート [戻る]を選び、〈メニュー/実行〉ボタンを押すと、1コマ再生に戻ります。

フィルターの種類と強さを選ぶ

〈▲〉〈▼〉ボタンでフィルターを選びます。
[ホワイト1]・[ホワイト2]
:反射光を白く表現します。
[レインボー1]・[レインボー2]
:反射光を虹色に表現します。
1は弱め、2は強めにフィルターがかかります。

〈メニュー/実行〉ボタンを押す

確認画面が表示されます。
〈メニュー/実行〉ボタンを押すと、クロスフィルターの画像が記録されます。

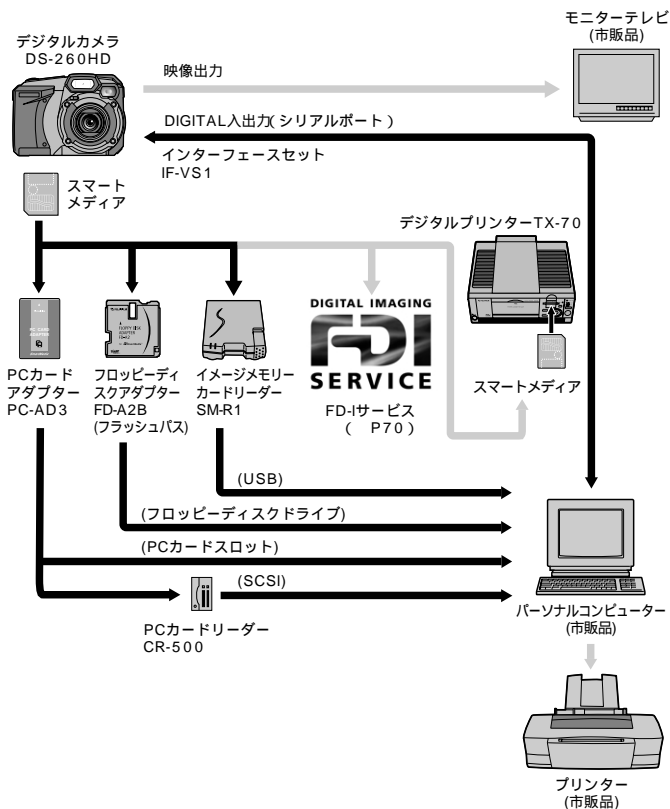
ノート クロスフィルターの画像は、最後のコマに記録されます。なお、元の画像はそのまま残っています。

画像を記録しないとき

〈▼〉ボタンを押します。メニュー画面に戻ります。

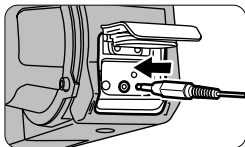
フィルター機能の種類・画像の大きさによって、処理にかかる時間が異なります。

システムアップ機器（平成11年3月現在）

別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

＊この他弊社ハンディトランスミッターにより画像転送が可能です。
＊➡黒線はパーソナルコンピューターへの画像転送方法です。

テレビを使った撮影・再生

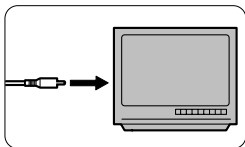
テレビを使って撮影したり画像を再生する場合は、あらかじめ、カメラとテレビを接続しておきます。
屋内などコンセントがある場所では、ACパワーアダプター AC-5V(付属または別売)をご使用ください。

1

ビデオケーブルをカメラに接続する

機器の電源をOFFにし、ビデオケーブル(付属品)のプラグをカメラのVIDEO OUT端子に接続します。

ご注意

- 機器の接続を行うときは、必ずすべての機器の電源を切ってから行ってください。
- 電源をONにしたまま機器の接続を行うと、画面が乱れたり正常に画像が表示されない場合があります。機器と接続する場合は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。
- ビデオケーブルが接続されている場合、液晶モニターには画像は表示されません。

2

テレビに接続する

ビデオケーブルのプラグをテレビの映像入力端子に接続します。

3

撮影(再生)する

撮影の方法はP18、再生の方法はP23、P42をご覧ください。

ノート スルー動画(撮影前の動画)は、再生画像などと比べると、多少不鮮明になります(解像度が低くなります)。

パソコンに画像を取り込むには(PCモード)

カメラとパソコンを専用ケーブルで接続して、画像データ送受信をすることができます。別売のインターフェースセット IF-VS1(Windows95/98、Windows NT4.0、Macintosh用)が必要です。

ノート カメラのPCモードで画像を取り込む他に、別売アクセサリーのPCカードアダプターやフロッピーディスクアダプター(FlashPath)を使用して、スマートメディアからパソコンに直接画像を取り込むこともできます。別売アクセサリーをご使用の場合は、それぞれの使用説明書をご覧ください。

ご注意

- 接続の前に、ご使用のパソコンにソフトウェアをインストールしてください。
- 接続はカメラ、パソコンともに電源を切ってから行ってください。

1

カメラのDIGITAL入出力端子にケーブルを接続する

電源をOFFにし、専用ケーブルのプラグをカメラのDIGITAL入出力端子に接続します。

ご注意

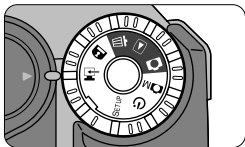
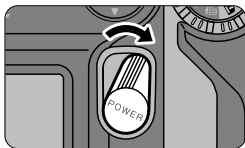
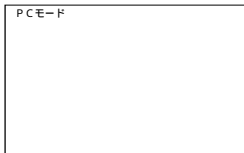
専用ケーブル以外のプラグ類を接続しないでください。故障の原因となることがあります。また、プラグが完全に差し込まれていることを確認してください。

2

パソコンに接続する

Windows　：COM1〜COM4ポートいずれか
Macintosh：モデムもしくはプリンタポート

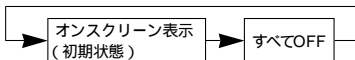
4

3

モードダイヤルを[ ]に合わせる

カメラの電源をONにする

液晶モニターの画面に、PCモードと表示されます。

パソコンの電源を入れ、アプリケーションを起動する

以降の操作はパソコン側で操作します。操作に関しては、各アプリケーションの使用説明書をご覧ください。

ご注意

- データ通信中に電源が切れると、画像データの正常な受け渡しができません。電池消耗による伝送の失敗を避けるため、ACパワーアダプター AC-5V(付属または別売)をご使用ください。
- PCモード時は、オートパワーオフ機能（➡P85）は働きません。
- PCモードでの操作後、他のモードで操作を継続する場合は、一度電源を切ってから他のモードに移り、電源を入れ直してください。
- 〈表示〉ボタンを押すとモニターの動作状態が下記のように切り換わります。

4

スマートメディアからプリントする

F-DIデジタルカメラプリントサービスについて

F-DI対応のデジタルカメラで撮影したスマートメディアなどをF-DIマークのお店に持って行くだけで、他の方式のプリンターでは得られない高品質なプリントができるサービスです(プリントは後日、サービス取扱い店にてお渡しします)。

＊対応メディア：スマートメディア、PCカード(PCMCIA準拠 TYPE I / II)、Zipディスク、フロッピーディスク(1.44MB)など

＊対応画像フォーマット：Exif(JPEG準拠)など

詳しくはサービス取扱い店にお問い合わせください。

デジタルプリンター TX-70 について

弊社製デジタルプリンター TX-70では、撮影済みのスマートメディアから直接画像データを読み取ってプリントすることも可能です。
使いかたについて詳しくはTX-70の使用説明書をご覧ください。

正しくお使いいただくためのご注意

ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- 湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ(モーター、トランス、磁石のそばなど)
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■砂がかからないようにしてください。

海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因となるばかりか、防水機能がそこなわれるなど修理できなくなることもあります。

■結露(つゆつき)にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内部やレンズなどに水滴がつく(結露)ことがあります。このようなときは電源を入れずに、1時間ほどたってからお使いください。また、スマートメディアに水滴がつくことがあります。このようなときはスマートメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリー・スマートメディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固い物でこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内のサービス窓口にご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因となることがあります。

電源についてのご注意

バッテリーについてのご注意

このカメラは、充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。ご使用に際しては、以下の点にご注意ください。特に別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

＊NP-100は出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

■バッテリーの特性

- バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前(1～2日前)に充電したバッテリーを用意してください。
- バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。
- 寒冷地では、撮影できるコマ数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。

■充電について

- ACパワーアダプター AC-5V(付属または別売)を使用して、本体で充電ができます。使いきったバッテリーの充電時間は約7時間です。別売のバッテリーチャージャー BC-100を使用すると、約2時間30分でバッテリーを充電できます。
- このバッテリーは、充電の前に放電したり、使いきったりする必要はありません。
- 充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。
- 充電は周囲の温度が0℃～＋40℃の範囲で可能ですが、バッテリーの性能を十分に発揮させるためには、約＋10℃～＋30℃の範囲で充電してください。
- 充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■バッテリーの寿命について

常温で使用した場合、300回以上繰り返して使えます。使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

危険ですので、次のことにご注意ください

⚠バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。
⚠火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。
⚠分解したり、改造したりしないでください。

5

壊れたり、寿命が短くなったりしますので、次のことにご注意ください

- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 水にぬらさないようご注意ください。

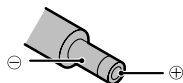
バッテリーの特性に合わせて上手にお使いいただくために、次のことにご注意ください。

- 端子は常にきれいにしておいてください。
- 温度が上がらない、乾燥した場所に保管してください。長期間高温の場所に置いておくと寿命が短くなります。

長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生にはACパワーアダプター(付属または別売)をお使いください。

■小型充電池のリサイクルについて

このマークは小型充電池(リチウムイオンバッテリーなど)のリサイクルマークです。小型充電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小型充電池の廃棄に際しては、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小型充電池リサイクル協力店へご持参ください。

ACパワーアダプターについてのご注意

極性統一形プラグ

DS-260HDには、必ず専用のACパワーアダプターAC-5V(EIAJ規格・極性統一形プラグ付き)をお使いください。AC-5V以外のACパワーアダプターをお使いになると本機の故障の原因となることがあります。

- ACパワーアダプターの接点部には、他の金属が触れないようにしてください。ショートする危険があります。
- DIGITAL端子には差し込まないでください。故障の原因となることがあります。
- バッテリー動作中にACパワーアダプターを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
- ACパワーアダプター動作中にバッテリーを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
- バッテリーがない状態でACパワーアダプターを抜くと、日時の保持はしません。日時を設定し直してください。(➡P17)
- バッテリー充電中にACパワーアダプターを抜くと、ファインダーランプが赤色点滅することがありますが、故障ではありません。

スマートメディアについてのご注意

■スマートメディアについて

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体 SmartMedia(スマートメディア)です。スマートメディアの中には、半導体メモリー(NAND型フラッシュメモリー)が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像データが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像データを消去したり、再び記録することができます。

■データ保持について

以下の場合、記録したデータが消滅(破壊)することがあります。記録したデータの消滅(破壊)については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

＊お客様または第三者がスマートメディアの使いかたを誤ったとき
＊スマートメディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊スマートメディアに記録動作中・消去(フォーマット)動作中にスマートメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき

大切なデータは別のメディア(MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど)にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■取扱上のご注意

- ●カードをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- ●スマートメディアの記録中・消去(フォーマット)中は、絶対にスマートメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。スマートメディアが破壊されることがあります。
- ●指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
- ●スマートメディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- ●強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
- ●高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。
- ●スマートメディアの接触面(コンタクトエリア)にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
- ●スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気による影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。
- ●静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ●ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- ●長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- ●スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- ●インデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。カードの出し入れの際、故障の原因になります。

- インデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように、はってください。
- 万一、当社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しいカードとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■スマートメディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのスマートメディアを使って撮影する場合、スマートメディアのフォーマットはカメラで行ってください。
  スマートメディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダ(ディレクトリ)[IM01FUJI] が作成されます。画像データは、このフォルダ内に記録されます。
- パソコンでスマートメディアのフォルダ(ディレクトリ)名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。スマートメディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- スマートメディア上の画像データの消去はカメラで行ってください。
- 画像データを編集する場合は、画像データをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像データを編集してください。
- パソコンからスマートメディアに画像データを記録または消去する場合、あるいはスマートメディアに本カメラで記録された画像を読み出す場合は、弊社製のソフトウェア Data Transfer Software PICTURE SHUTTLE（別売のインターフェースバリューセットIF-VS1に付属)をご使用ください。

■誤記録防止について

- ライトプロテクトエリアにライトプロテクトシールをはると、ライトプロテクト状態になり、記録・消去ができなくなります。
- シールはライトプロテクトエリアからはみ出したり、浮きやはがれのないようにはってください。
  市販のラベルなどははらないでください。カード出し入れの際、故障の原因になります。
- シールが汚れていると、ライトプロテクト機能が働かない場合があります。汚れは、乾いた柔らかい布などでふいてください。

■主な仕様

形式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード SmartMedia(スマートメディア)
メモリーの種類	NAND型フラッシュメモリー
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～＋40℃　湿度 80%以下(結露しないこと)
外形寸法	37mm×0.76mm×45mm（幅/高さ/奥行き）

5

警告表示

液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示	警告内容
(バッテリー表示)	カメラのバッテリーの容量が少ない。
⚠ NO CARD	スマートメディアが入っていない、または入れている向きが間違っている。
⚠ CARD NOT INITIALIZED	スマートメディアがフォーマット(初期化)されていない。
⚠ CARD ERROR	スマートメディアが壊れている。 スマートメディアのフォーマットが異常。
⚠ CARD FULL	スマートメディアの全コマ(フレーム)に記録されている。
⚠ PROTECTED CARD	スマートメディアが誤記録防止状態になっている。
⚠ FRAME ERROR	正常に記録されていないデータを再生した。
⚠ UNMATCHED DATA	カメラで記録したデータ以外のコマを再生した。
⚠ FILE No. FULL	コマNo.が99―9999に達している。
(手ブレ表示)	シャッター速度が遅く手ブレを発生しやすい状態。
⚠ PROTECT!!!	プロテクトされているコマを消去しようとした。
⚠ AF	AF(オートフォーカス)がうまく働かない。
⚠ CAN'T EXECUTE	フィルター機能が実行できない。

ファインダーランプについて

ファインダーランプの状態には、以下のものがあります。

ファインダーランプ		内　　容
色	状　態	
緑	点　灯	準備完了
	点　滅	AF・AE動作中または手ブレ・AF警告
橙	点　灯	スマートメディアに記録中/バッテリー充電中
	点　滅	ストロボ充電中
赤	点　滅	●スマートメディアが未挿入。 ●スマートメディアがフォーマットされていない。 ●スマートメディアのフォーマット異常。 ●スマートメディアにライトプロテクトシールがはられている。 ●スマートメディアの空き容量がない。 ●スマートメディアが異常。 ●バッテリー充電動作異常。 ＊液晶モニターでエラー内容が確認できます。

故障とお考えになる前に

故障と思う前に、もう一度お調べください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	●バッテリーが消耗している。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れている。 ●モードダイヤルの設定位置がずれている。	●バッテリーを充電する。または、充電済みのバッテリーと交換する。 ●電源プラグをコンセントに差し込む。 ●モードダイヤルを正しい位置に設定する。
電源が途中で切れる。	●バッテリーが消耗している。	●充電済みのバッテリーと交換する。
バッテリーの消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っている。 ●端子が汚れている。 ●バッテリーの寿命。	●バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付ける。 ●バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布でふいてください。 ●充電済みの新しいバッテリーと交換する。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアが入っていない。 ●スマートメディアが表裏、または前後逆に入っている。 ●スマートメディアの全コマ(フレーム)に記録されている。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。 ●スマートメディアがフォーマットされていない。 ●スマートメディアの電極部が汚れている。 ●スマートメディアが壊れている。 ●オートパワーオフになり、電源が入っていない。 ●バッテリーが消耗している。	●スマートメディアを入れる。 ●スマートメディアを正しい向きに入れる。 ●新しいスマートメディアを入れるか、コマを消去する。 ●誤記録防止状態を解除する。 ●フォーマットする。 ●スマートメディアの電極部を乾いたきれいな布でふく。 ●新しいスマートメディアを入れる。 ●電源を入れる。 ●充電済みのバッテリーと交換する。

症　　状	原　　因	処　　置
ストロボ撮影できない。	●モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●ストロボ発光禁止モードになっている。 ●充電中にシャッターボタンを押した。	●モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光モードにする。 ●充電が完了してからシャッターボタンを押す。
ストロボの充電ができない。	●記録できるスマートメディアが入っていない。 ●ストロボ発光禁止モードになっている。 ●バッテリーが消耗している。	●新しいスマートメディアを入れる、コマを消去する、誤記録防止状態を解除する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光モードにする。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。	●被写体に近づく。 ●スローシンクロで撮影する。 ●大型ストロボを併用する。
再生画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。	●レンズを清掃する。
スマートメディアのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	●誤記録防止状態を解除する。
全コマの消去ができない。	●コマがプロテクトされている。	●プロテクトを解除する。 ●フォーマットする。
カメラのボタンやスイッチを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動 ●モードダイヤルの設定位置がずれている。	●電源(バッテリー)をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作する。 ●モードダイヤルを正しい位置に設定する。
〈表示〉ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	●ビデオケーブルがVIDEO OUT端子に接続されている。	●ビデオケーブルを外す。

主な仕様

システム

システム型式　デジタルカメラ
スマートメディア　スマートメディア(3.3V)
標準撮影枚数

画　質 モード	画　像 圧縮率	1コマの データサイズ*	4MB (MG-4S)	8MB (MG-8S)	16MB (MG-16SB)	32MB (MG-32SB)
Fine	1/4	約650KB	5	12	24	48
		約160KB	24	49	98	197
Normal	1/8	約330KB	11	23	47	96
		約 85KB	45	91	183	367
Basic	1/16	約170KB	22	46	92	185
		約 50KB	80	160	322	645

*上段：1,280×1,024ピクセル
下段：　640×　480ピクセル

記録方式　JPEG準拠(Exif Ver.2.1)
記録画素数　1,280×1,024ピクセル / 640×480ピクセル
撮像素子　1/2インチ正方画素インターライン方式原色CCD
総画素数：約150万
撮像感度　ISO 100相当
レンズ　フジノン3倍ズームレンズ
焦点距離　f=7.4mm～22mm(35mmカメラ換算約35mm～105mm相当)
ファインダー　実像式光学ズームファインダー：視野率 約80%
露出制御　TTL64分割測光　プログラムAE
(マニュアル撮影時：露出補正/絞り優先AE選択 可能)
ホワイトバランス　自動切換え
(マニュアル撮影時：6ポジション切換え可能)
撮影可能範囲　標準　：約 90cm～無限遠
マクロ　：約 25cm～90cm
シャッタースピード　可変速　1/4秒～1/1,000秒(自動切換え)
絞り　開放　F3.8～F5.5
セルフタイマー　タイマー時間約10秒
消去方式　1コマ消去・全コマ消去・フォーマット(初期化)
液晶モニター　1.8型　D-TFD　7万画素
ストロボ　調光センサーによるオートストロボ
(マニュアル撮影時：明るさ補正可能)
撮影可能距離：約0.4m～2.0m(望遠、プレ発光なし時)
約0.4m～3.0m(広角、プレ発光なし時)
発光モード　：オート / 赤目軽減 / 強制発光 / 発光禁止 / シンクロ

入・出力端子

VIDEO出力端子	ミニ（φ3.5mm）ジャック 1Vp-p 75Ω 不平衡 同期負
DIGITAL (RS-232C、RS-422)端子	ステレオミニミニ（φ2.5mm）ジャック パソコンとの画像データおよび操作の送受信
DC入力端子	専用 ACパワーアダプター AC-5V接続

電源部, その他

電源
充電式リチウムイオンバッテリー NP-100(付属または別売) または専用 ACパワーアダプター AC-5V(付属または別売) 使用

バッテリー撮影可能コマ数(電池寿命)

電池の種類	液晶モニター ON状態	液晶モニター OFF状態
バッテリー(NP-100)	約100コマ*	約230コマ*

*バッテリーをフル充電した場合

- 常温でストロボ使用率50%の場合の、連続して撮影できるコマ数のめやすです。ただし、カメラの使用環境温度やバッテリー充電量のバラツキによる変動はあります。

使用環境	温度 0℃〜＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
本体外形寸法	145mm×106.5mm×100mm(幅/高さ/奥行き)(付属品、小突起部含まず)
本体質量	約648g（付属品、バッテリー、スマートメディア含まず）
撮影時質量	約698g（NP-100装着時）
付属品	P7をご覧ください。
別売アクセサリー	P82をご覧ください。

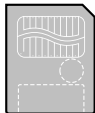
＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、微細な斑点が現われることがあります。また、液晶の表示(特に文字の周囲)に色がつくことがありますが、どちらも故障ではありませんのでそのままお使いください。記録された画像にはこのようなことはありません。

別売アクセサリーの紹介(平成11年3月現在)

オプション(別売)のアクセサリーを使うと、さらに便利な撮影ができます。使いかたや、接続のしかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。

スマートメディア

別売のスマートメディアです。以下の3種類がお使いいただけます。

- **MG-4S　：　4MB、3.3V動作**
- **MG-8S　：　8MB、3.3V動作**
- **MG-16SB：16MB、3.3V動作**
- **MG-32SB：32MB、3.3V動作**

PCカードアダプター PC-AD3B

スマートメディアをPC Card Standard ATA(PCMCIA2.1/JEIDA4.2)に準拠したPCカード(TYPEII)として使えます。

- **3.3V/5V動作のスマートメディアでご使用になれます。**
- **別途専用アプリケーションソフトのご利用をおすすめします。**

フロッピーディスクアダプター FD-A2B(FlashPath:フラッシュパス)

通常の3.5インチのフロッピーディスクと同じ形をしたアダプターです。
スマートメディアをフロッピーディスクアダプターに挿入し、フロッピーディスクドライブに差し込むだけで、スマートメディアの画像をパソコンに取り込むことができます。

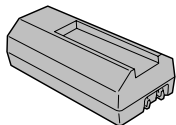
- **フロッピーディスクアダプター FD-A2B対応OS**
  - **・Windows 95/98(IBM PC/AT互換機)**
  - **・Windows 95 4.00. 950B(OSR2)以降/Windows 98(NEC PC-9821シリーズ)**
  - **・漢字Talk 7.5.3からMacOS 8.1(Power Macintoshシリーズ)読込み専用**
- **別途専用アプリケーションソフトのご利用をおすすめします。**

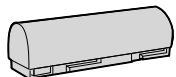
インターフェースバリューセット IF-VS1

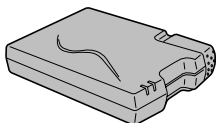
Windows、Macintoshと画像データのやりとりができるようになります(専用接続ケーブル、アプリケーションソフト付き)。MG-8S同梱

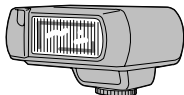
- **Windows95/98、Windows NT4.0(日本語版)用、Macintosh用**

バッテリーチャージャー BC-80

充電式バッテリーを短時間で充電します。
充電時間は約2時間30分です。
対応電源100〜240V

充電式バッテリー NP-100

リチウムイオンタイプの高容量充電池です。

イメージメモリーカードリーダー SM-R1

イメージメモリーカード（スマートメディア）からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みが可能です。USBインターフェースにより高速なデータ転送を行います。

ストロボGA

本機装着時に6mの距離までのストロボ撮影が可能です。
本ストロボは防滴構造ではありません。

ワイドコンバージョンレンズ WL-260HD

焦点距離を0.8倍に変換します。
本機装着時に28mm〜84mm相当(35mmカメラ換算)の撮影が可能です。

用語解説

AF・AEロック ：このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定(AF・AEロック)します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF・AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

ATAカード ：PC Card Standard ATAに準拠したPCカード(TYPEⅡ)。

Exifファイル形式 ：Exif(Exchangeable Image File Format)は、JEIDAにて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。

JEIDA ：Japan Electronic Industry Development Association(日本電子工業振興会)の略。

JPEG ：Joint Photographic Experts Group形式
カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸張(画像の復元)したときの画質は劣化します。

PCカード ：PC Card Standardに適合するカードの総称。

PC Card Standard ：JEIDA/PCMCIAで定めたPCカードの規格。

PCMCIA ：Personal Computer Memory Card International Associ-ation(米国)の略

SmartMedia ：スマートメディア。SSFDCフォーラムで定められた新しい記録媒体の名称。別売のPCカードアダプターを使うと、PCカード(TYPEⅡ)としてお使いいただけます。

赤目現象 ：人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることをいいます。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするには
①赤目軽減モードで撮影する
②撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
③なるべく近づいて撮影する
などしてください。

オートパワーオフ機能：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を防ぐため、約2分間何の操作もしないと自動的に電源をOFFします。

- オートプレイ時やPCモード時は、オートパワーオフしません。
- 〈メニュー/実行〉ボタンを押しながら電源をONすると、オートパワーオフ機能は働きません。
  電源を一度OFFにしたあと、再度電源をONにするとオートパワーオフ機能が働きます。
- 2分以上放置後の撮影では、ストロボが発光せず、適正な画像が得られない場合がありますので、ご注意ください。

白バランス：人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせてバランス調整を行って、初めて白い被写体は白に見えます。この調整を白バランス(ホワイトバランス)を合わせるといいます。

スレーブ機能：カメラ内蔵のストロボの発光に同調して、外部ストロボを発光させる機能です。

デジタル2×撮影：液晶を使った撮影時に、画面中央部分を2倍に拡大して、焦点距離を見かけ上2倍（35mmカメラ換算で約210mm)にします。
望遠側で〈▲〉ボタンをを約2秒間押し続けると設定され、画面中央部分をさらに2倍拡大して、6倍になります。ただし画素数は640×480ピクセルに固定されます。画面中央部分を拡大するので、画質は粗くなります。

フォーマット(初期化)：スマートメディアのフォーマットとは、スマートメディアの内部を、データを記録する(書き込む)ための形に整えることです。

6

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

■それでも調子が悪いときはサービスステーションへ
お買上げ店、またはフジサービスステーションにご相談ください。

■保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■修理部品の保有期間
本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年をめやすに保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■修理ご依頼に際してのご注意
- 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添付してください。
- お買上げ店やフジサービスステーションの窓口で、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と料金をご指定ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
- 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
- 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合はフジサービスステーションで、お預かりしてから通常7～14日位をご予定ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

■ 型名　　　：DS-260HD
■ 故障の状況：できるだけ詳しく
■ ご購入年月日

富士写真フイルム株式会社

●修理の受付は…

札幌フジサービスステーション　〒060-0002 札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館 TEL (011) 222-3973
仙台フジサービスステーション　〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル TEL (022) 265-2149
東京フジサービスステーション　〒105-0022 東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル TEL (03) 3436-1315

名古屋フジサービスステーション　〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-19 TEL (052) 202-1851
大阪フジサービスステーション　〒541-0051 大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル TEL (06) 6260-0915

広島フジサービスステーション　〒732-0816 広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター TEL (082) 256-3511
福岡フジサービスステーション　〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 TEL (092) 281-4863

※土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。その他夏期等休業させていただく場合があります。
・東京フジサービスステーションは、通常の土曜日（祝日、年末年始、夏期休暇以外）は営業しております。
　ただし、受け渡し業務のみとなります。

●富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター（月曜日〜金曜日　午前9：30〜午後5：00）TEL (03) 3406-2981

この用紙は、再生紙
を使用しています。

BB09431-100(1)

FGS-991102-FG